

庄内地域における学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた取り組み
(各種地域団体との意見交換)の概要

豊中市教育委員会では、庄内地域の6小学校に関係の深い公民分館や校区社会福祉協議会など、地域住民の方を対象に、庄内地域の小・中学校の現状と課題や、これまでの取り組み、今後の予定等についての説明及び意見交換を実施させていただきました。その際、ご出席の皆様から多くのご意見、ご質問を頂戴しましたので、その質疑応答についてまとめました。

【学校名、団体名(会議名)、実施日について】

学校名	団体名(会議名)	実施日
庄内小学校	庄内公民分館及び 庄内校区社会福祉委員会	10月30日(木)
庄内南小学校	庄内南小学校学校評議員会	10月31日(金)
庄内西小学校	庄内西小学校PTA運営委員会	9月10日(水)
野田小学校	野田校区社会福祉協議会	11月 1日(土)
島田小学校	島田校区社会福祉協議会	9月18日(木)
千成小学校	千成校区自主防災会	10月31日(金)

計6小学校、約150名

頂戴したご意見やご質問につきまして、関連項目ごとにまとめて整理するとともに、趣旨を損なわないように要約しています。

教育委員会といたしましては、今後も保護者や地域住民の皆様と継続的に話し合いながら、庄内地域のより充実した教育環境をめざす具体的方策の検討を進めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

<問合せ先>

豊中市教育委員会事務局 教育総務室 企画チーム

〒561-8501 豊中市中桜塚3丁目1番1号(豊中市役所第一庁舎6階)

電話 06-6858-2705 FAX 06-6845-6778

電子メール kikakuseisaku@city.toyonaka.osaka.jp

●小規模校課題について(メリット、デメリット等)

質問・意見等	回答等
【意見】子どもの人数が減っているとは思っていたが、こんなに少なくなっているとは思わなかったです。本当に驚きました。我が子が小学生や中学生だった頃が懐かしいです。	
【意見】今の学校には魅力がないのでしょうか。魅力がない原因は「小規模」だからなのでしょうか。小学校に入学する前は、みんなワクワクしていたはずですよ。	
【意見】学校に魅力がない要因は、やはり小規模にあると思います。学校で学ぶことは勉強だけではありません。集団行動やクラブ活動、人間関係の形成など、学校生活を通じて学ぶことは多いです。例えば、やりたいクラブがないからクラブに入れない、すると子どもから元気がなくなる、という悪循環に陥ってしまいます。私は、第六中学校、第七中学校、第十中学校を一つにまとめて、クラブ活動が活発に行われるように教職員を多く配置してもらえばよいと思います。	
【意見】小規模化が進み、学校施設の維持管理がしんどくなっていると思います。昔は、子ども、先生、PTA、地域住民が協力して掃除したり、ペンキ塗りをしたりしましたが、今は携わる人が少ないと思います。昼間、職員室を訪ねても、誰もいないことがありました。	確かに手が回らないというのは事実ですが、教育委員会の支援もあり、施設管理面でのしんどさは感じていません。(教職員)
【意見】 クラス替えができないと言われているが、40 人学級で考えるからそうなのであって、1 学級あたりの人数を減らせばクラス替えできるようになるのではないのでしょうか。	
【意見】自分の子どもは今 5 年生で、3 年生のときから単学級が続いており、このまま卒業することになると思います。クラス替えができない辛さというのは、私も子どもも実際に味わっています。子どものことを考えると、クラス替えできる人数は必要です。大人数の中で、自分の居場所が見つけられるのではないかと思います。	
【質問】大阪の子どもの学力が低いという話をよく出しますが、少人数の学級の方が勉強は良く見てもらえるのではないのでしょうか。	一概にそうとは言えません。また、少人数でクラス替えができないことで、人間関係が固定化しやすいなど少人数の学級の課題も多いと認識しています。

●分割校について

質問・意見等	回答等
【意見】今後も子どもの人数が減るようなら、分割して第十中学校に進学する島田小学校の子どもが益々少人数になってしまいかわいそうです。分割進学は解消してほしいです。	
【意見】分割校の解消はぜひお願いしたいです。実際に、千成小学校から第七中学校に進学した子どもが不登校になりかかっていると聞いています。	中学校進学に不安を感じたり、馴染めずに学校に行けなくなる「中一ギャップ」の問題がクローズアップされており、分割校の解消も進めていかなければならないと認識しています。
【意見】千成小学校は第六中学校と第七中学校に分割進学します。第七中学校では、千成小学校出身の生徒が少なく、肩身の狭い思いをしています。進学する人数が少ないと、いじめの対象となるのではといった不安や、友達が少なく不登校となるのではという不安があります。できるだけ分割校を解消してほしいと思います。校区が変わると、各種地域団体の活動においても課題が出てくることでしょう。しかし、子どもの将来を第一に考えると、できるだけ全部進学としていただきたいと思います。	南部地域においては、分割校を解消する方向で具体的な方向性を検討してまいります。

●まちづくりについて(南部コラボセンター構想を含む)

質問・意見等	回答等
【意見】南部に住みながら、北部へ人が流れていくのはなぜでしょうか。北部へ人が流出する原因を考えてほしいです。	南部にも良いところはたくさんありますが、教育環境の充実をめざして、来年度中には方向性を決めていきたいと考えています。
【意見】資料に「魅力ある学校づくりの具現化」とありますが、教育委員会だけで議論を進めても、子どもの数は増えず小規模課題は残ったままになります。市全体で魅力あるまちづくりを進めないと、南部に人が集まらず、魅力ある学校になっていかないのではないのでしょうか。教育委員会だけではなく、市長部局とも連携をとりながら進めていくべきだと思います。	市全体でビジョンをもって進めないといけないというご指摘はそのとおりだと思います。市が進める(仮称)南部コラボセンター構想にあわせて、環境の充実を図ってきたいと考えています。
【意見】魅力あるまちづくりは簡単ではありません。最終的には小規模校を統合するという結論にしかならないのではないのでしょうか。そうすると、学校規模の話に議論は矮小化され、魅力あるまちづくりが後回しにならないのでしょうか。	今後も児童生徒数の厳しい状況は続くでしょう。(仮称)南部コラボセンターという複合施設をつくる構想がありますが、そこへ教育として新しい機能を付加していくことも、一つの魅力づくりですし、また(仮称)南部コラボセンターの機能を学校に付加することも考えられます。今の学校にこんな機能があればという考えや、こんな学校にしたいという意見があれば、市全体の動きの中で教育委員会として働きかけていきます。

【質問】学校だけではなく、この地域全体の魅力づくりのための施策も必要ではないでしょうか？	現在、市全体として南部の活性化や魅力を高めるための検討が進められています。魅力ある学校づくりも教育委員会だけではなく、市の様々な部局とも連携して、まちづくりの観点も踏まえて考えていきます。
【質問】少子高齢化が進む中で、教育環境を整備することは素晴らしいことだと思います。ただ、小学校 41 校区単位に存在する地域団体は、各コミュニティの中でまちづくりを進めており、校区が変われば地域活動にとって大きな問題が生じることになります。こうした地域団体への配慮はあるのでしょうか。	教育委員会では「学校規模と通学区域に関する課題の解消に向けた基本方針」に沿って検討をすすめているところです。基本方針の中で学校を取り巻く地域コミュニティ等にかかる検討課題を挙げており、地域の様々な活動の中心に学校が位置づいていることから、地域コミュニティとの関係にも十分配慮しながら検討を進めることとしています。

●学校の配置のあり方について(統廃合等)

質問・意見等	回答等
【質問】学校の統廃合について、教育委員会である程度プランが固まっているのではないのでしょうか。	単純に考えれば、学校を再編して児童生徒数を増やすという議論になりますが、統廃合により出現する問題(校区が広くなる、通学距離が長くなる等)も考えていかねばなりません。地域の方々との丁寧な意見交換の機会を設け、保護者や地域住民の方との議論を深めながら慎重に検討を進めていきたいと考えています。
【意見】地域の小学校が無くなるのは嫌です。現段階で何も決まっていないのであれば、小学校を残すメリットを教育委員会へ訴えかけていくべきなのではないでしょうか。	現状の学校が抱える課題についても意見交換を重ねていきたいと思います。
【質問】子どもにとっての一年はとても貴重なものです。自分が子どもの頃、庄内小学校と庄内南小学校とに分かれて、辛い思いをしました。学校を再編することは、子どもたちにとって大事な成長の段階での大きな変化となりますので、子どもに精神的な負担がかからないよう配慮が必要です。一方で、庄内地域は、高齢者が多く、子どもが少ないという現状を日々感じています。庄内地域にとっては、学校の再編は前向きな変化だと思います。	
【意見】昔のように庄内中学校 1 校に戻せばよいと思います。大黒町 2 丁目は昔、通学区域が第六中学校→第七中学校→第六中学校と変更された経緯があり、兄弟なのに出身中が違い、保護者は両校の PTA を経験しています。いつまでそういうことをしているのでしょうか、早く解決すべきです。学校の統合は、何かと問題はありますが、大蛇を振るうチャンスです。大都市・大阪市に隣接する庄内地域に牧歌的な中学校が 3 校あっても仕方ありません。大阪市は、曾根崎小や精華小などが廃校になっており、時代の流れだと思います。	

【意見】日本人は固定観念が強く、物事を変えることを嫌がる傾向にあります。しかし、こうも人数が減ってきているのであれば、学校統合せざるを得ないのではないのでしょうか。	今回の意見交換やワークショップなどを通じて、保護者や地域住民の方のご意見を聞かせていただきたいと考えております。すべての意見を採用することはできませんが、さまざまな方のご意見を伺ったうえで、平成 27 年度(2015 年度)には案をお示ししたいと考えています。ぜひ「魅力ある学校づくり」ワークショップに参加してください。
【意見】何事にもいい面、悪い面があつて、どうしよう、こうしようと言いつつ合っているものがないと思います。まずは、(学校統合によって)人数を集めてやっていくしかないと思います。	
【意見】中学校の統合は話題に出っていますが、小学校を統合しようという話は、この場にいる誰からも出ていません。	
【意見】自分が中学生のころ、庄内には小・中学校とも 1 つしかなく、庄内中学校は 1 学年 4 クラスほどの規模でした。(学校統合によって)通学距離が遠くなるという話もあるようですが、我々の頃は 1 校しかないから、歩いていかなければ仕方ありませんでした。 少子化が進む中で現状の小学校 6 校を維持することは誰が考えてもできないでしょう。今年 8 月に南部フェスティバルを開催しましたが、庄内中学校出身なので、顔見知りによく出会いました。この地域で暮らしていくのであれば、広く知り合いがいた方がいいと思います。	
【意見】全国的に見ても、学校統廃合の流れになってきています。寂しいとは思いますが、やむを得ない面もあるのではないのでしょうか。	
【意見】「校区を見る目」や「庄内地域を俯瞰して見る目」など、さまざまな意見を聞いてもらって案を考えてもらいたいと思います。その案を見たときに、「とうとう来るべきものが来たか」という話になるかもしれませんね。元々、庄内地域に学校は 1 校だけでした。子どもたちは私たちの宝であり、6 年間、小規模のまま人間関係が固定化することは問題が多いと思います。	

●小中一貫、小小連携について

質問・意見等	回答等
【質問】池田市では小中一貫教育に取り組んでいるが、豊中市ではどう考えているのでしょうか。	池田市では、今年度から小学校、中学校のグループを設定し、「〇〇学園」と呼称して小・中学校のつながりを強化しています。来年度には、「ほそごう学園」（細河小学校、伏尾台小学校、細河中学校）が施設一体型小中一貫校となる予定と聞いています。 一方、豊中市には分割校が 14 校存在しており、小中連携や小中一貫教育の展開が図りにくいという状況があります。

●今後の検討の進め方について

質問・意見等	回答等
【質問】小学校校舎の耐震工事との関係はどうなるのでしょうか。	耐震工事は、現在通学している子どもたちの安全のために行うものです。魅力ある学校づくりの検討の影響で、現在予定している耐震工事が無くなることはありませんし、耐震工事が行われたことが今後の魅力ある学校づくりの検討に影響を及ぼすものでもないと考えています。
【意見】具体的にいつ頃、方向性がかたちになるのですか。	平成 26 年度(2014 年度)中は、庄内地域での説明及び意見交換会やワークショップ等を通して、丁寧に地域の方々からの意見をいただきながら検討を進めていき、平成 27 年度(2015 年度)には、何らかのかたちで皆様へ具体的な案をお示ししたいと考えています。お示した案については、引き続き地域の方々から意見をいただく機会を設けて、意見を反映させながら、来年度末には最終的にひとつの具体案としてかたちにしていきたいと考えています。そのため、実際の動きは、平成 28 年度(2016 年度)以降となりますが、現状では具体案が決まっていないため、実現に要する期間は未定です。
【意見】南部地区の課題の解消に向けた検討を進めるには、学校や教育委員会だけでなく、地域の様々な団体から意見を出していく必要があります。南部の子どもが激減しているということは、大きな問題であり、できるだけワークショップ等へ参加し、意見を出し合うことで、今後へつながっていくと思います。	
【質問】「魅力ある学校づくり」とのことですが、これは学校統合を前提に市教委が誘導しようとしているのでしょうか。	平成 26 年度(2014 年度)中は地域の方々と丁寧に意見交換を重ね、平成 27 年度(2015 年度)中に一定の方向性を決めていきたいと考えています。決して誘導しようとはしていません。
【質問】「魅力ある学校づくり」ワークショップにぜひ参加したいと思っていますが、一住民として、校区の小学校のことを考えて発言しても問題ありませんか。	今回のワークショップは、参加者同士で「学校にこんな機能や施設があればいいね」といった話をしてもらいたいと考えて「魅力ある学校づくり」というネーミングにしました。

また、(仮称)南部コラボセンターのことも含めて、発言してもよろしいでしょうか。	た。今回のワークショップでは、ぜひ小学校の話も聞かせてほしいと思います。様々な人たちの声やニーズを聞いて判断したいと考えています。
---	---

●その他

質問・意見等	回答等
【意見】会合の中の一部の限られた短い時間で説明を受け、意見を求められても答えようがありません。便乗して説明会をやっている感じが拭えません。やるなら、今回のようなかたちではなく、きちんとそれだけの意見交換の場を設けるべきだと思います。	今日のこの場は皆様との意見交換を始める入口だと考えており、今後、様々な機会においてお話しをさせていただこうと思っています。
【質問】我が子が中学校入学の時に第十中学校が開校しました。当時、第十中学校に入学させたくない保護者も多くいて、3年間は中学校を選択できるという配慮がなされたのを覚えています。私たちのような地域の者と、現在実際に子どもが通学している保護者とは、意見も異なると思います。	1学期には各小中学校の PTA の皆様のご意見を伺い、この 2 学期には、地域の皆様との場を設けさせていただいています。今後も引き続き、いろいろな立場の方々からのご意見をいただきたいと考えています。
【質問】(学校規模が)南部と北部とで違うようですが、北部の現状はどうなっているのでしょうか。	南部は児童・生徒数が減少してきており、今後も減少していく見込みですが、北部や東部では大規模マンション開発等により、人口は増加傾向にあり、一部学校では教室不足等の課題が生じてきています。
【質問】今回の取り組みは、市全体として取り組んでいるのでしょうか。	今回の件は、教育委員会をはじめ、南部コラボや地域自治を所管している市民協働部や、乳幼児の保育、子育て等を所管しているこども未来部など、関係部局の参画も得て庁内検討会議を設置し、情報共有しながら検討を進めているところです。